

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Contains details for 株式会社さくらコミュニティサービス.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 1 column and 1 row containing a URL: https://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\_kouhyou\_detail\_022\_kihon=true&JigyosyoCd=0170400907-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Details for 特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所ケア理念の「六つの誓い」を毎日唱和し、各ユニット毎に入居者様に対してその日に意識して行う項目(内容)をきめて、実践し、日々振り返りもおこなって、入居者のQOLの質を高める取り組みをしています。
2019年より、ミャンマー人の介護での外国人技能実習生の受け入れを開始(北海道初)技能実習生の技術指導、日本での技能実習資格試験や日本語試験取得の為の取り組みを行っております。
コロナ感染が拡大する前までは、町内会の行事にも参加し、施設に近隣の方々、児童館の子供達も訪れ、交流をはかっております。
また、入居者の終の棲家となるべく、終末期に伴う「看取り介護」も行っており、その方らしく最期まで過ごせるよう、ご家族、医療機関を蜜にとり実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

最寄りのJR・地下鉄の駅から車で5分程の住宅街に立地し、周辺には電気店、コンビニ、ドラッグストア、大型商業施設、小学校、公園が点在しており、買い物や散歩を始めとした利用者の社会参加や地域と密着した暮らしが育まれる環境にある。事業所は開設から18年目を迎える中、系列事業所共通のケア理念である「六つの誓い」を一番重要なケア指針と捉えて、一人ひとりの主体性を尊重した自分らしい生活を目指し、利用者のクオリティの向上に向け熱意を持って臨んでいる。その具体的な取り組みとして「六つの誓いの実践」と称し、毎日ひとりの利用者注目し、今日の一瞬を楽しむプランを全職員で考え企画し、サービスの実践に挑み、振り返りを重ねながら、実際の介護計画に生かすなど、理念に沿ってチーム一丸となり努力している。事業所の特徴として、広い庭や畑を設けており、桜・梅・栗の木が四季を感じさせ、サクランボや栗、大根やインゲンなどの収穫や手入れを利用者と共に楽しみ、食卓の一品にも加わり、この外出自粛の閉塞感を拭い、重要なレク活動として生かされている。事業所は長期的な視点を持ち、利用者がいつまでも安らげる場所として、看取り支援にも努めるなど、認知症介護支援に邁進している様子が窺える。

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Contains 10 rows of evaluation items (No. 56-62) comparing staff/user satisfaction and organizational performance.

自己評価及び外部評価結果

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所のケア理念を毎日唱和し、理念に沿ったケアの実践を行っている	系列事業所共通のケア理念として「六つの誓い」を策定し、サービスの基盤と定めている。毎日の唱和と文書や掲示で理念が明確に示され浸透を図り、実践に生かされている。新人職員は理念研修にて理解を深めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	児童館の子供達との交流や町内会の行事にも利用者様と参加している	今年度は全ての行事が中止であるが、以前までは、町内会の夏祭り、花壇作り、清掃活動に利用者も参加しており、ボランティア訪問に加え、毎年七夕には児童会館の子供達が来訪し、一緒に短冊を作り、ハンドマッサージを受ける等、和やかな交流が育まれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	西区のGH連絡会の徘徊訓練に参加し、参加者の方への認知症の方の理解にむけて活動している			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の運営推進会議の場(コロナ前は書面会議) 町内会役員、地域包括担当からは意見をいただき、運営に役立てている	元年まで地域包括職員、町内会役員、民生委員、利用者等の参加の下、2か月毎に開催し、事業所や利用者の実情、行事活動など報告し、意見交換が成されていたが、昨年以降、書面会議となり職員のみで実施している。	議事録は掲示しているので、更に全家族に配布することで、参加要請に繋げる事を期待する。書面会議では、全運営委員に向けて意見・要望・助言を収集する工夫に取り組み、議事録に記載し運営に生かす事を期待したい。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホーム長が窓口となり、町内会役員、民生委員、札幌市介護保険指導員の方たちとの関係構築を図っている	行政とはホーム長が主となり情報の交換に努め、感染症対策や介護保険制度等について、相談し指示を仰ぐ等協働関係を築いている。包括職員とも職員採用について、情報やアドバイスを有り、良好な連携を図っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的、心理的虐待への理解を深める為、勉強会を実施している、入居者様の行動を妨げず、外出等のニーズにも柔軟に対応(コロナ禍以前)	委員会は全事業所合同で、定期的リモート開催している。虐待と身体拘束に関して、毎月の勉強会において、適正化に係わる内容やグレーゾーンの確認を行い理解を深めている。日常のケア場面で不適切な表現や対応が見られたら、各役職者が注意を促し、玄関はコロナ禍対応で、人の出入りを確認するために施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内勉強会実施、職員間の知識共有、ケアの統一など、会社としてマニュアルの整備を行っている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月一回の社内勉強会にて学べるようにしているが、活用の機会を作るのはむずかしく、実施できていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ホーム長により、契約締結、解約を行っているご家族、本人が不安にならないように、情報開示と説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の在所確認書類と一緒にご家族より意見を記入する用紙を送付している。来訪時には意見希望を伺いケアに反映させている	家族には毎月郵送する「在所確認書」の中で、利用者の直近の様子を報告し、意見、要望を伺う用紙も添付して想いを表せる機会を設けている。家族から菓子差し入れの相談など受けている。利用者とは電話での声やガラス越しでの対面で様子を確認頂き、季節行事でのスナップ写真を送付し好評を得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議の場や、面談、日々の業務の中で意見交換や提案による業務改善にとりくむようにしている	全体会議や日常業務の中で課題解決に向けた話し合いが持たれ、利用者支援の充実や働き易い職場環境整備に生かしている。コロナ禍でのレク活動の充実を図るための提案など、職員は積極的に運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度については、本社主体で現在の物の見直し整備中である		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修、実践者研修、介護福祉士資格取得研修、会社理念や様々な研修に参加できる機会が多くある		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区のGH連絡会 オンラインを使用した勉強会などにも参加し、他の事業者との交流の機会があり、サービスの向上に役立てる取り組みを行っている		

自 己 評 価	外 部 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にホーム長、ケアマネジャーが面会の機会を持ち、ホームの体験見学など行い、要望などの情報収集し、サービス開始前に不安のない関係づくりに務めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望や、疑問等が、電話や来訪時に必ずお聞きするようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族に趣味や好きな物など情報を収集し、支援につなげている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活歴、主体性を尊重し、できる事は自分できるよう環境整備する事で共に暮らしていくパートナーとして関係を築いている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度、文書での近況報告をし、行事等は参加を呼び掛け、家族と共に入居者を支える関係に努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力で、馴染みの蕎麦屋、喫茶店などに定期的にいかれる方もいるが、コロナ過で一旦中止となっている	コロナ禍にあっても年金支給日には毎回銀行で払い出して好きなタバコを購入したり、現在は中断しているが、蕎麦屋、喫茶店、理髪店、墓参りや買物などの外出支援も、家族と共に今迄の生活習慣や馴染みの関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事作業や、畑の収穫など、一緒に行っていたりなど、関係性が保てるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の看取りを行った家族より、他のご家族入居依頼があり、相談を受ける事もある		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での小さなニーズをとりこぼさないよう、ご本人とご家族との会話を大切にしている	「六つの誓いの実践」と称し、毎日一人の利用者の今日の一瞬を楽しむプランを職員全員で取り組み、サービスの実践と振り返りを行い、思いの把握に努めている。意思疎通が困難な場合でも、表情や仕草などの全体像に着目して意向を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	病院や居宅事業所からの情報提供や本人ご家族からの情報を参考にしながら把握に努めている。生活歴から今の現状を捉えて、本人にとってより良い支援を考えている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できない事より、できる事に焦点を当てる事でその方の力を発揮できるケアに努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画に対する意識改善を行い、その方らしく暮らせる生活の実現を再検討している。その為にアセスメント、モニタリングを担当職員にやってもらえるようにしている	利用者、家族の意向を基に、担当職員が中心となり、モニタリング、アセスメントを行い、介護支援専門員と共に新たなケアプラン作成や3ヵ月毎の見直しに取り組んでいる。職員は、毎月のカンファレンスで話し合い、情報を共有し、ケアの統一や実践の確認が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りとケース記録、月1回のユニットカンファレンスにて、ケアや、介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族がいつでも気軽に出入りできる雰囲気作り、また写真やお便りなどで様子をお伝えしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事の参加、近隣住民との関わりなど恵まれた環境にある、向かいの電機店、コンビニ、床屋を利用したり、児童会館、町内交流会に参加している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携している医療機関と連携がスムーズで、24時間の緊急体制ができています。他科受診、救急時の受け入れ先の紹介などのフォロー体制もある	利用者全員がオンコール体制が整っている協力医療機関と契約し、月2回の訪問診療を受けている。歯科医は週1回の口腔ケア訪問と要望に応じた往診対応である。専門医の外来受診は家族対応で支援し、情報の共有は図られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の連携先の看護師による訪問(コロナ過は電話相談)で健康管理を受けている。必要には、連携の医療機関への連絡し、対応をうける事ができている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関と連携を密にし情報が途切れないように努めている。入退院時の説明、病状経過に関する話し合いには参加するようにしている			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者に対して、ターミナルケアについての意向をご家族から確認し文書を交わしている。終末期には主治医からの説明と必要に応じて看取りに関する同意の文書をかわしている	事業所は利用者にとり終の棲家になる様に、終末期支援に取り組み、多くの看取りを経験している。入居時に重度化対応の指針を説明し、同意を得ており、危篤時には再度看取りの意思を確認し、改めて同意書を交わし、医師、看護師、職員とで方針を共有し、チームケアで臨んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	提携医療機関とは24時間の連携体制をとっており緊急時の連絡網を整備している。応急手当や初期対応の訓練はまだ全員の職員は受けていない			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施、消火器訓練、緊急警報装置取り扱い方法の周知と消火器の実演など行っている	今年度の防火避難訓練は、消防署及び地域住民の参加は得られず、職員のシミュレーション訓練を昼想定で2回実施している。前回の目標に掲げた一時避難場所の確保として、向いの電気店と隣家に依頼し、協力関係を築いている。	災害時マニュアル作成及び最新のハザードマップで状況を把握し、自然災害対策に着手することを示しているので期待したい。更に、夜間想定及び様々なケア場面を想定した避難訓練の実施も重ねることを期待したい。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ケア理念に基づき人格の尊厳とプライバシーの保護に努めている	職員はケア理念を理解し、プライドやプライバシーを損ねない対応を心がけている。特に、異性による介助の際は、入浴時のタオル掛け、排泄時の膝掛けを用意するなど、意識させないように十分に配慮して支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自訴の少ない入居者の思いを汲み取るための関わりができるようにし、色々な視点から積極的な関わりに努めている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護度が高い入居者が多く中で、その人らしい生活の実現を検討し工夫、改善をチームで行っている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理美容、毎日の整容、出かける際に着替えるなどその方らしさを心がけている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を提供するだけでなく、一緒に作る、盛り付けなどを行う事で、五感を使って食事を楽しむ事ができる環境づくりをしている	委託業者から届く献立や食材を、時には好みに合わせてアレンジ料理を提供している。誕生日には希望のスイーツで祝い、行事食では餅つき、寄せ鍋、畑の栗で炊き込みご飯、出前寿司や仕出し弁当など取り入れ、食事形態にも気を配り、変化を楽しみ、満足の得られる食卓となっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を活用し、食事量、水分量を把握し、食事形態の工夫により、一人ひとりに適した食事提供を行っている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自歯がある方は自歯を失う事で食生活が変わってしまわないように、食後、起床就寝時の口腔ケアを実施、義歯の方も口腔内の残渣をスポンジで取り除くなど行っている			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パット交換の為にトイレ誘導ではなく、トイレで排泄ができるよう、排泄確認表を活用しその方のリズムに合わせた誘導を行っている	排泄確認表を基に、習慣や生活リズムに沿った支援に努め、トイレでの排泄を支援している。夜間のポータブルトイレ使用、ベッド上の交換、オムツ、リハビリパンツ、パット等の活用も、一人ひとりの根拠を明確に検討し、不快感の排除に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らず、食べ物から便秘の予防ができるよう、乳製品の摂取の提供を行っている			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回を目安に個人の意向や状況に合わせて入浴支援を実施している	利用者の体調に配慮しながら、週2回を目安に支援している。自立者は夕食後を希望し、見守りの中ゆったりと寛いでいる。状態により、足湯にシャワー浴、清拭などで清潔を保っている。拒む人も無く、1対1では会話や歌を楽しむなど、リラックス出来る関わりを心がけている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の照明や安眠できる環境は個人個人で対応している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関から発行された薬の情報は確認できるように整備。変更がある場合は申し送りして把握して支援にあつたっている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業や新聞を毎日とりに行くなど、日々のルーティンの継続も生活の張り合いとなっている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	銀行や、買い物の希望を個別支援にしていると共に、皆さんと一緒にドライブや、町内の集まり(新年会など)にも出かける機会がある	例年は個別支援を主とし、蕎麦屋、喫茶店、銀行、買い物、墓参り、外食等を家族の協力も得て出かけている。ドライブで紅葉見物や町内のお祭りには、利用者と一緒に楽しんでいるが、今年度は自粛の下に、玄関先での外気浴、畑作業で気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望の入居者はご家族と相談し、所持し、買い物など行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事席の他にも、ソファやベンチを設置し気分や状況に合わせて落ち着けるよう配慮している。四季に合わせた行事で季節感が味わえるようにしている	感染症防止対策として、空間除菌脱臭機を各ユニットに備えている。各ユニット入口には、温かみある言葉が描かれた暖簾が掛けられ、共有空間には利用者与合作の季節の飾りが施されている。一日の大半をリビングで過ごされる利用者が多く、食卓、ソファ、ベンチなど、其々が自分の居場所を確保しながら、和気藹々と和やかな時間を過ごせる空間を作りあげている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自発的なコミュニケーションが困難な方には職員が仲介するなど孤立しないようにしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い馴れた家具や好みの写真等を置き、落ち着ける環境作りを工夫している	居室には洗面台が設置され、ベットも備えられている。入居時には、筆筒、冷蔵庫、テレビを整え、大切な家族写真や亡夫写真、趣味の物や愛着のある人形など持ち込み、寛ぎと安心が保てる環境を作りあげている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームはバリアフリーで引き戸が多く、エレベーターもあり、車椅子や歩行器でも館内を移動しやすい		